

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (南関東)	良くなる	一般小売店 [医薬品] (経営者)	・当店の営業方針を大きく変えたため、それが功を奏して良くなっていったようである。
		衣料品専門店 (店長)	・気温が下がりが、スーツ、コート、冬物の需要が高まれば、今月より更に良くなる可能性がある。
		観光名所 (職員)	・観光地であるため、2～3か月後はトップシーズンとなる。9月に比べて、より多くの旅客が訪れてくれることを期待している。
	やや良くなる	商店街 (代表者)	・若干希望的観測ではあるが、カードの取扱高がここ数か月前の流れより回復基調にあり、客の財布のひもがゆるくなってきたようである。ただ、アジア情勢により、アジアの富裕層の客足が止まると売上にひびく。
		一般小売店 [和菓子] (経営者)	・秋らしい気温となり、爽やか天候になったら客数も回復してくるのではないかと思う。秋はイベントやお祭り等が多いため、天候に恵まれれば、かなりの売上が見込める。
		一般小売店 [文房具] (経営者)	・今月の後半のような荒れた天候ではなく、安定した天候であれば、やや良いのではないかと考えている。今月の前半は天候に恵まれたことにより非常に良かったので、そのような点から良くなる判断している。
		百貨店 (販売促進担当)	・気候が涼しくなってからの動きが活発になっているため、期待も込めてやや良くなる。
		スーパー (店長)	・今後は気温や季節が関係してくると思うが、年末商戦に向けて今の景気や店舗の状況よりは良くなると期待している。消費者は年末になると必要ではない物でも買うようになると思われる。
		コンビニ (経営者)	・一部に非常に心配、不景気だと言う人もいるが、相対的には購買意欲は非常に強いと思うため、やや良い。
		衣料品専門店 (経営者)	・年間で一番売上が期待できるシーズンのため、今よりは良くなるだろう。ただし、商品単価が一段と安くなったことが心配であるのと、中国からの商品が順調に入ってくるのかが気がかりである。
		乗用車販売店 (販売担当)	・東日本大震災の復興で、本格的な活動が始まりつつある。ダンプカーやクレーン車、ミキサー車など、建設関連の車については受注も多く、今後もまだ売れそうである。また、政治絡みで選挙があれば、選挙の年は多少良くなるという期待感があるため、やや良くなる。
		その他小売 [ゲーム] (開発戦略担当)	・ホリデーシーズンは現在よりも盛り上がると思うが、昨年ほどの勢いはないようである。
		その他小売 [ショッピングセンター] (統括)	・気温の低下に伴い、前年比100%以上の回復基調に転じれば、景気の底堅さはみられる。
		一般レストラン (経営者)	・12月ごろは歓送迎会や忘年会があり、今よりも良くなる。
		旅行代理店 (経営者)	・残暑が厳しかったせいか、なかなか8月は思うように動かなかったが、彼岸が過ぎたので客も一段落し、問い合わせ等が大分多くなってきている。いよいよ秋の行楽シーズンに入り、味覚狩りや家族旅行などの問い合わせが大分多く来ているため、やや良くなる。
		通信会社 (経営者)	・客に節約疲れがあるように感じる。欧州の信用不安等いろいろ言われても、個人の生活にあまり影響が感じられず、消費に向かう。
		通信会社 (管理担当)	・政権交代の可能性があるため、景気が上向く期待がある。
		その他レジャー施設 (経営企画担当)	・年末に向けて催事の予約が好調に推移しており、来客増が期待できる。
		その他サービス [立体駐車場] (経営者)	・今が悪すぎるためである。
		設計事務所 (所長)	・一般消費者や事業主が建て替えや新築などへの関心を示しつつあるため、何か動き出すのではないかと考えられる。
	設計事務所 (職員)	・消費税増税前の駆け込み発注に向けた案件数の増加に期待する。	
	住宅販売会社 (従業員)	・これから3か月は、消費税増税の影響で需要が見込め、それに対応できる仕入を確保することによって良くなる。市況は緩やかに下降しているが、早期販売を心掛けていければ良さそうである。	
	住宅販売会社 (従業員)	・消費税増税のニュースにより、来場数が増えてきた。例年、年末、年度末に向かい動きが出てくるため、景気はやや良くなる。消費税増税前の駆け込み需要が少しずつ出てきそうな状況である。	
	住宅販売会社 (従業員)	・来場者数が増えており、例年に比べても多くなっている。	

変わらない

商店街（代表者）	・今のところ急速に景気が上向き気配がない。ただ今後、新政権が発足した後、過去の景気の良さがまた少し戻ってくるような期待をしている。
商店街（代表者）	・これからの日本の首相が誰になるかによって、少しは変わっていくと思う。東北を思い切って変えていかないと今の状態がそのまま続く。
一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・良くなる理由が見当たらない。消費税増税や負担するものが増えて、購入意欲が削られる。LED照明や太陽光に期待をかけるところである。
一般小売店〔印章〕 （経営者）	・これは商売だけではないと思うが、現在、日本が置かれている立場や、我々の身近に不安材料が非常に多いと感じる。そのため、あまり大きな買い物はせず、必要最小限の物しか購入しないのではないかという感じがある。もう少し購買意欲が増すような環境になって欲しい。
一般小売店〔祭用品〕 （経営者）	・イベントの多い、10月に期待したいところである。
一般小売店〔家具〕 （経営者）	・良くなるような要素がないため、現状と変わらない。
一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・いろいろな意味で、政治的にも不安定要素が多すぎる。当社は郵便局がメインの客だが、10月に会社が変わるということで、今後どうなるのか見えてこない。また国会が空転しているせいで、予算が下りてこない。実際予算はあるのだが、特例公債法案が通らないと、いろいろな意味で役所関係の大口の予算が執行できないということで、今困っている。それがいつになるのか、さっぱり分からない状態である。政治的に少し安定してほしい。
百貨店（売場主任）	・今の政治の情勢や諸外国との不安定感から、景気が上がる見込みがない。
百貨店（総務担当）	・景気自体は大きく好転する要素がない。当社としては来客数を増やす施策を講じていくことが急務であり、リモデルも含め考慮していく必要があると考えている。
百貨店（総務担当）	・基本的に経済的な要件が上がってきたり、ファンダメンタルズが良くなっていく状況はない。また、ヨーロッパの経済不安や、中国、韓国の問題等があるなかで、消費税増税が決まっていくということでは、今後についても、当面景気は決して良くなる環境にはない。
百貨店（広報担当）	・大型商業施設の新規開業や百貨店各店の大型改装も一段落し、年内は主體的に景気にインパクトを与えるような状況は見当たらない。また、与党の党首の交代も無かったことから、消費税や財政的な変化も見込めず、何とか現状を維持していく。
百貨店（営業担当）	・例年に比べると、気温が高く夏が続いていることが主要因で、秋物衣料の動きが悪く、厳しい状況が続いている。また、尖閣諸島の国有化に伴う中国情勢の悪化も影響している。ただ、月末から気温も例年並みに下がってきており、秋物衣料の動きも良くなってきている。
百貨店（営業担当）	・9月の不振が、気温の影響のためなのか、消費に関する傾向が変化したためなのか、見極めが難しい。2～3か月先は年末商戦となるため、現在は傾向をつかむのが非常に難しい。
百貨店（営業担当）	・中国との貿易にも影響が出始めている。加えて大手企業の大幅人員削減も、消費に少なからず影響が出てくる。
百貨店（販売管理担当）	・売上対策の一環として優待販売を強化しているが、その効果は徐々に薄れてきており、消費者の購買意欲に活発さが無い。しかし、残暑が長引いた反動で、今後、秋冬物に一定の動きがあると考えられる。
百貨店（副店長）	・長い残暑、天候不順に加えて世界経済の情勢、日本の領土問題などによる消費者心理の冷え込み等がある一方で、天候の安定、政局のリフレッシュによる期待などに伴う、消費者心理の好転も期待できる。
百貨店（営業企画担当）	・天候にもよるが、暖冬などの影響もあれば今後も苦戦が予想される。
スーパー（経営者）	・ずっとやや悪い状態が続いており、この先も同じような傾向ではないかと思う。7月末に競合店ができて、それほど大きな影響はないのだが、今までよりは少し悪くなっているようである。しかし、全体的には変わらない。
スーパー（店長）	・3か月後の予測は変わらない。今が底だと思うが、オーバーストア状態のなかで、チラシをまいてもなかなか安い物しか買わなかったり、 unnecessaryな物は買ってもらえないという状況である。そのため、今の底のまま毎月が終わっていき、明るい展望が見えない。

スーパー（店長）	・日常生活の節約志向は相変わらず続いており、より安くといった志向が変わらないため、単価、点数の上昇を望むにはあまりに難しく、状況はさらに厳しくなるようである。
スーパー（店員）	・現在来客数は伸びているが、来客数に伴う取引点数は思ったほど伸びてはいない。また、点数、平均単価も部門によりばらつきがある。価格訴求指定に対しては販売数は伸び、支持率が上がっているが、それ以外のところでは横ばいが現状である。
スーパー（総務担当）	・当店では、頻度品中心のため消費税増税が決まっても、まだ直近にならなければ数字としては変わらない。また、世の中の予見等で大ヒット商品や傾向が見られず、新商品についても、以前は富士山型だったのが、今では、すぐ売れてすぐ売れなくなるというペンシル型が続き、大きく売上を伸ばしていくということは見られない。
スーパー（営業担当）	・円高、株安の影響もあるが、将来に対する不安がやはり押しよこされておらず、一番大きな要因である。
スーパー（仕入担当）	・中国からの輸入加工品が多いため、領土問題による中国との摩擦は、今後、影響が表れてくる。
スーパー（仕入担当）	・来客数や買上点数は前年並みを維持しているが、1品単価の落ち込みにより、売上自体は横ばいもしくは下降気味である。
コンビニ（経営者）	・11月ごろ、近隣にスーパーの出店があり、影響があると思う。スーパーの時給が高く、スタッフも集まりにくくなりそうである。また、当地域の最低時給が上がり、営業費の負担が増える。
コンビニ（経営者）	・同業他社の出店攻勢が続いているが、今後数か月程度はセール等の力を借り、現状維持が見込まれている。
コンビニ（経営者）	・客の来店状況を見ていると、バスで最寄りのターミナル駅、当店近くの駅に出てきてから買物をし、そのなかで店に寄ってくれるという客も大変増えている。そのため、集客力は店独自だけではなく、コミュニティ全体で上がっているようである。ただし、買上については、いろいろな店が進出してきているために競争も大変激しく、客単価が若干落ちている。総数にして客数は増え、客単価が落ちているため、変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・前年と比較すると悪いが、現在のトレンドがそのまま続くと予測している。
コンビニ（店長）	・コンビニという業種の、地域のなかでの役割を更に追及していかなければいけないと感じている。そして、このウォッチャー調査がそのきっかけにもなるため、大変有り難く思っている。
コンビニ（商品開発担当）	・伸張の兆しが全く見られない。
コンビニ（商品開発担当）	・来店客数、客単価が上昇する好材料もなく、消費者の動向も大きく変化することが見られない。
衣料品専門店（経営者）	・衣料品は中国製が非常に多く、今までと同じように計画的な入荷があるか、今後大変不安がある。
家電量販店（統括）	・新型スマートフォン以外に、市場を大きく動かす家電商品が見当たらない。
乗用車販売店（経営者）	・当社は自動車の整備と販売をやっており、整備は順調に入っているが、販売はエコカー補助金が終了したことで、前年比3割減となっている。
乗用車販売店（経営者）	・今まで停滞していた中古車の売上が、少しずつ伸びる。
乗用車販売店（販売担当）	・新車販売のエコカー補助金も終了だが、補助金が無くなった後も客数はあまり変わらず、来客がある。商談数もそれほど落ち込んでいないため、この状態が続く。
その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・野党政権が成立すれば、若干上向きになる。
その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・将来的に見ても環境に左右されることがこれからも多々ありそうである。
高級レストラン（店長）	・宴会予約の推移で判断して、変わらない。
一般レストラン（経営者）	・尖閣問題などが中国の観光客に影響するように、韓流ブームも下火になり、政治の流れが大きく影を落とし予断を許さない。
一般レストラン（経営者）	・やはり3か月後も今と変わらない。消費税増税もあると思うが、もし解散総選挙などで政治が安定してくれば、多少は何か、経済も良くなるような気がする。今の政権だとやはり不安材料が多すぎるため、どうしても消費は低迷する。

一般レストラン（経営者）	・まだまだ売上、客数とも前年に追いつけない状態で、下げ止まっていない。飲食店を経営しているが、この先消費税増税の問題が大きく影響してくるようで、大変心配である。
一般レストラン（店長）	・とにかく物や食料品が値上がりし、仕入価格も厳しくなっている。そのなかで来客数も伸びず、当店として先があるのかといえば、全くない状態である。
一般レストラン（スタッフ）	・当店は50年やってきたため、売上はそれほど落ちてはいない。しかし、支払等が増えてきているため、売上は落ちてはいないが、純利益としては少なくなっている。他のことでも、テナントが空くなど家賃も入ってこない。政府も景気を上げるように何かしてくれればいいが、何もしてくれないので、これでは大変である。
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊の予約は、入り方がますます遅くなり、間際の安い料金がインターネットに出るのを待っている様子があり、先の予約がなかなか伸びない。また、付近での催しもなく団体予約も伸びない。レストランも、七五三は予約が特定の日に集中して、もう伸びる余地はなく、平日利用の予約も間際まで入らず、宴会は忘年会の予約は少しずつ入ってきているが、前年同時期で予約人数が下回っている。新年会の予約は、本年の1月とほぼ同人数の受注ができています。
旅行代理店（従業員）	・領土問題で海外旅行から国内旅行へ切替える団体旅行が相次いでいる。国内旅行は特需的な感じで、北海道や沖縄方面が好調である。ただし、海外旅行から国内旅行にシフトしたため、販売額が減少している。
旅行代理店（従業員）	・先行受注は前年比120%以上で進んでいたが、尖閣諸島問題等で日中関係の渡航がキャンセルになったり、先行の受注が入ってこなくなり、先が見えない。
旅行代理店（支店長）	・やはり今は東京スカイツリー関連の仕事が非常に多く入っている。ただし、発注のピークは少し過ぎたようであり、2～3か月後も同じ状況であると思う。また、冬になれば、業界としても秋のシーズンより全体は下がるため、変わらない。
タクシー運転手	・この先の不安が一番大きいことが尾を引いている。
タクシー（団体役員）	・景気が良くなる要素が見られず、今後も厳しい営業環境が続く。
通信会社（経営者）	・12月より新商品の販売が開始される予定であり、テレビ、インターネット販売のきっかけとして期待しているが、需要増大には今一つと考える。
通信会社（経営者）	・客のコストに関する考え方は相変わらずシビアで、営業活動が好調に推移するとは思えない。
通信会社（社員）	・良くなる要素が見つからない。地上デジタル放送への移行後、落ち込んだ加入数がかここ2か月は安定してきているため、悪くなっていくとも思わない。低めで安定している。
通信会社（営業担当）	・政治は不透明感があり、景気の先行きに不安があるため、消費者は買い控えをしている。
通信会社（営業担当）	・特に良くなる材料が見当たらない。むしろ中国、韓国との関係悪化による、経済への影響が懸念される。
通信会社（局長）	・ボーナス時期に向けて、企業の好調要因からの新聞記事が発表されれば、年末年始の期待感から、上向きになる可能性があると思うが、年末年始の海外旅行の反響もごく一部の富裕層に過ぎない。
ゴルフ場（支配人）	・販売量、来場者数、3か月間横ばいである。
パチンコ店（経営者）	・低玉貸しを導入したことで少し客数は増えたが、安く遊べるということで、トータルの売上はさほど変わらない。やはり客があまりお金を使わないで遊ぶ傾向になっている。先行きにそれほど大きな変化は感じられないため、変わらない。
その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・政治の迷走が相変わらず続いており、消費税増税の決定も拍車をかけ、消費マインドを低迷させている。
その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・先行きが不透明である。外交的な不安要素からくる景気低迷や政治に対する不安などのため、変わらない。
その他レジャー施設 [アミューズメント]（店長）	・直近数か月の状況が予想以上に悪化しており、回復の兆しが見つからない。
その他サービス [保険代理店]（経営者）	・年末で顧客の購買心に期待をするが、まだ先が見えない景気状況にあり、零細企業まで景気回復が及ぶのはまだまだ先のようなのである。
その他サービス [学習塾]（経営者）	・9月からの入塾者数は昨年とほぼ同じである。

	設計事務所（経営者）	・仕事を取るために構えていたのでは変わらないと思っている。いろいろチャレンジし、工夫をし、そしてPRをし、そういった結果によって、当社では今、仕事がさばききれないほどになっているが、これから先となるとただ構えていたのでは伸びないと思う。前後を見ながら更なるチャレンジする心構えが必要である。
	住宅販売会社（従業員）	・今後、消費税増税前の駆け込み契約が増加すると見込まれるものの、着工はまだ先のことであり、完工高の増加には結びつかないため、収益は変わらない。
	住宅販売会社（従業員）	・消費税増税で、そろそろ先取り意識により、受注に動きが出てくるかもしれないが、確実に表れるのは来年以降であるため、しばらくは横ばいである。
	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材関係は好調だが、どんどん良くなるというよりは、このペースを維持する。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・間接的ではあるがやはり中国、韓国と、今思うような形で取組ができておらず、経済もそういう意味では、中国人観光客がかなり減っているなど、皆、商売に対して閉塞感を感じているようである。今後これを何とかしていかないと、消費税も8%に決定していることもあり、買物に対する雰囲気は非常に悪くなってきている。ぜひそのあたりは、国のほうで何か良い案を出してもらえるとありがたい。
	商店街（代表者）	・一般家庭で電気料金やその他いろいろな価格が高くなり、今の世情からは輸出がかなりダメージを受けていくと思う。それが徐々に響いてくるため、多少悪くなっていく。
	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・主力で売れる商品がなく、消費者の購買意欲も衰えている感じがする。単価の安い商品が売れている程度である。
	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・ようやく涼しくなってきたが、今年は近年まれに見る暑さのため、夏から秋にかけて売上金額も昨年より激減している。このままでは昨年にも追いつかず、ますます売上が減ってきてしまいそうである。
	百貨店（総務担当）	・先行き不安である。
	百貨店（営業担当）	・天候も、長期予報では暖冬の予測である。また、選挙等も考えられ、良いニュースが全くない。
	百貨店（店長）	・現状の消費動向を見ていて、積極的に買い物をしているようには見えない。
	コンビニ（経営者）	・近隣に大型スーパーができたことに加え、競合店が増えたためである。
	コンビニ（経営者）	・国内的には政局不安が続くようであり、それに伴って経済政策の遅れが懸念される。また、国際的には非常に問題が山積しており、民情不安が影響してくる。
	コンビニ（経営者）	・先行き不透明な状態が続いているためである。
	衣料品専門店（経営者）	・昨今の領土問題に発して、経済的にもいろいろ問題が起きている。そのような関係上、なかなか消費に関心が向かわない、余裕がない、景気が悪い、ということが続く。
	衣料品専門店（経営者）	・世の中が落ち着かず、不安な状態である。さらに、中国から働きに来ている人達が、反日感情の影響が極端に買物が減少していることもあり、しばらくは良くならない。
	衣料品専門店（経営者）	・暑さや大雨等の天候不順で、なかなか秋物衣料に目を向けてくれない。イベントで顧客の動員をはかる予定だが、的確な商材手配が読みにくい。点単価、客単価の低下も予想される。
	衣料品専門店（店長）	・消費税増税が決定してから、少しずつ実用衣料の比率が上がってきている。本当に必要な物以外は控えようとしてきている。
	衣料品専門店（営業担当）	・日本には今まで四季があったが、最近では春と秋がなくなってきたようである。メーカーも作り込みを怖がり、物を作らない。売れ筋も見つからず、厳しい状況が続く。
	衣料品専門店（営業担当）	・不況が定常化して買い控えが広がり、高齢者の財布のひもが固いようである。
	家電量販店（店員）	・これから年末に向け、物量の動きが多くなっていくなか、極端な値下げが景気の悪化へと拍車をかけてしまう。
家電量販店（営業統括）	・中国との関係悪化に伴い、中国人観光客の減少だけでなく、製品供給やメーカーの企業体力の消耗などが、消費に悪影響を及ぼす危機感を感じている。特に訪日観光客の減少では、10月の大型連休だけで終わればいいが、来年の旧正月まで長引くと影響は少ない。	
乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金申請の受付が9月21日に終了し、その反動減が既に次の土日から出ている。今月、来月とかなり苦戦が見込まれる。	

乗用車販売店（総務担当）	・新型車発売効果も、長続きしないと思う。さらに、中国との問題がエスカレートすれば大事になり、自動車業界はもとより、各業界へも景気の悪化につながるのではないかと心配である。
乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー補助金の終了、エコカー減税は平成27年4月まで継続中のなか、駆け込みの受注はここ1か月あまり見られない。今後、多少影響はあるにせよ2年前のような、前年比20～25%減にはならないと思う。環境や燃費の良いHV・PHV車を中心に客のニーズに合った丁寧な提案をして、総合営業を続けていく。
住関連専門店（店長）	・暖冬予想のため、やや悪くなる。
住関連専門店（統括）	・景気が伸び悩んでいる状態で、消費も抑えられているのが現状である。
その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・ドラッグストアの競合だけでなく、調剤薬局も競合が増えてきているため、客の取り合いになるのは目に見えている。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・天候の影響もあるが、9月に入ってから衣料の動きがかなり悪く、先行きが懸念される。
高級レストラン（支配人）	・中国、韓国関係で影響が出るのは必至である。近隣企業、特に商社やメーカーでは、両国との取引や工場がある企業が多いため、すでに影響が出始めている。
一般レストラン（経営者）	・子ども手当の廃止や消費税増税など、今後、家計の負担が多くなるのが確実に分かっているため、徐々に心理的に冷え込んできている。財布のひもが固くなっているようである。
都市型ホテル（スタッフ）	・解散総選挙がいつになるのかと、政局の不安定さが経済を停滞させると思うため、少し悪くなる。
都市型ホテル（スタッフ）	・年末にかけて忘年会やイベントなど目白押しとなるが、特に例年に比べ、イベントの動きが悪く厳しいスタートである。この時期レストランは高単価販売ができるが、例年販売数が減少し単価も下がる傾向にあるため、見直しが必要である。高単価商品の売行きが悪く、利益を圧迫してきている。
都市型ホテル（統括）	・サラリーマン1人当たりの小遣いが、1か月当たり4万円を切るなど消費縮小傾向に向かいそうである。
タクシー運転手	・秋は気候も良く、健康志向の動きもあり、2～3キロくらい平気で歩く人も増え、需要が減る。あまり期待はできそうもなく、12月を待つのみである。
タクシー運転手	・中国や朝鮮との問題もあるが、それによってなお一層、また景気の落ち込みが加速するのではないかと予想している。非常に厳しい状態が続く。
通信会社（営業担当）	・通信については顧客のニーズが固定して、スマートフォン、次世代ワイヤレスブロードバンドと多様化しており、競争も激化している。若干の下振れが見込まれる。
通信会社（局長）	・モバイル系の販売数は増えていくと思うが、それをけん引するのは若年層であることから、必需品とはいえないケーブルテレビの契約数自体は伸び悩む。
通信会社（営業担当）	・価格での競争が激しくなっており、改善する要素が少ない。
美容室（経営者）	・周りの商店街が徐々に減ってきているような気がする。
その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・東日本大震災の後、電車等が止まることが多く、近くの塾に通う子供が増えた。いろいろ災害が多く、地震も予知され、また先月や最近の電車の事故後も、小学生が主だが、近くの塾に通う、電車に乗って通わせたくないという父兄が出てきている。人数は減少の一途をたどっているおり、景気の回復は見込めない。
その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・政治の不安定さ、あるいは国際政治、特に領海問題等、経済にも様々な影響を与え始めている問題が続いている。経済界や消費者の間にも先行きに対しての不安材料が増えている状態であるため、消費については大分弱気なマインドになっている人が多いと思う。その意味で、3か月後の状況としてはあまり良くない。
設計事務所（所長）	・今年に入っていまだに民間の仕事がないことを考えると、先行きが不安になる。とにかく耐震改修の仕事を確保することを考えて今はやっている。
設計事務所（所長）	・今の状況下、新築物件が非常にない。ほとんどがリニューアルや改修工事、耐震補強で、これも普段のように厳しいなか、なかなか計画どおりに発注されないのが現状である。先々明るい光が差すかという、非常にその点は難しいという実感である。
悪くなる	一般小売店〔家電〕（経営者） ・とにかく客の所を回っても、本当に良い話等を聞くことはなく、設備投資の話などもなく、全体的に品物自体が動いていない気がする。

		一般小売店〔茶〕（経営者）	・9月も厳しい暑さが続くなか、消費税増税や電気料金の値上がりなどで客の買い控えが続き、売上も前年割れの状況である。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・政治、特に外交や、経済が共に不安定な要素が多く、あまり期待はできない。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・次の競合店出店の計画も進行中のため、影響はしばらく続く。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・可処分所得が減る一方で増える兆しがない中で、いろいろな社会的な問題、政治的な混乱がまだ続いている状況のため、本当に心配である。もっと悪くなるのではないかと心配している。
		スーパー（ネット宅配担当）	・サラリーマン所得の減少や消費税増税の決定により、ますます節約志向が高まる。圧倒的な安さや、多用途などの購入理由をより打ち出していかないと売れない。
		コンビニ（経営者）	・中国との摩擦や欧州の信用不安など、不安材料が多いためである。
		乗用車販売店（経営者）	・需要の先食いとも思われるエコカー補助金が終わり、反動減でさらに販売は厳しくなる。
		乗用車販売店（店長）	・9月の新車販売台数が、全国的に見ても45万台を下回るのは、過去10年間でも最低の水準となる。10月以降も販売の勢いが戻る要因は見当たらず、その理由としては政局の不安、経済の停滞、また10月以降、自動車保険の改定等いろいろな問題が山積されている。
		タクシー運転手	・尖閣諸島と竹島の領土問題で紛争が起きているが、特に中国との貿易問題が懸念されており、徐々に悪影響が出てきているため、景気は悪くなる。
		ゴルフ場（従業員）	・政権交代なのか、とにかく一度決着をつけるべきである。早く安定した政治を行ってほしい。
		美容室（経営者）	・よく分からない。
		住宅販売会社（経営者）	・政府は景気対策を後回しにして政権争いに没頭しているように思う。このように国民不在の政治の中では先の見通しは全く立たずに、ますますデフレ経済から脱却することは遠のくばかりである。
企業 動向 関連  (南関東)	良くなる やや良くなる	—	—
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・当社のトラックの場合は、9月が良ければ今年は大丈夫だろうと先月も言ったが、材料がどんどん動いて、4月からやや良くなってきて、9月が今までで一番良かったようである。このまま年内は大丈夫だと思うが、ちょっとした例えば中国の問題、そういうこともみんな影響してきて、すぐ減速してしまう。しかし、トラックのほうは、今年は大丈夫そうである。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・夏の商品出荷量が多かったこともあり、冬の出荷量も見込めている。
		不動産業（総務担当）	・期待含みだが、新規テナントの入居問い合わせ件数が増えてきているため、空室率の改善が見込める。ただし、賃貸料の希望水準は想像以上にシビアな状況で、交渉が難航、長引く傾向にある。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・10月に入れば、例年だと仕事増が見込める。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・しばらくこういう状況が、停滞気味のまま続く。
		食料品製造業（経営者）	・政治が安定しなければ、購買意欲が沸かないと思う。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・年末の繁忙時期までは、必死にこらえるのが現状である。
		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・経費削減、低価格の風潮がこのまま定着すれば、将来の利益幅増は見込めない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係の得意先は売掛でやっているが、店頭に来る個人客の需要はそれほど変わらないと現場で感じている。同じ法人関係の客でも、業界によって大変上がっている所と下がっている所があり、はっきりと違いが出てきたと感じている。電力関連は下がっているが、薬品、メディカル関連は上がっているようである。同じ法人関係でも上下があるため、これからあまり変わらない見通しである。
化学工業（従業員）		・販売先や仕入先の廃業があり、話を聞くと、今年になって仕事がなく、今後も仕事がないため、廃業とのことである。このため商品の動きがつかめず、良くなる要因がない。	
金属製品製造業（経営者）		・売上、受注量とも減少し、過去の悪いレベルにきた。大手の取引先も活気がなく、しばらく同じ状況が続くそうである。	
一般機械器具製造業（経営者）	・良くなるような気配が全体から感じられない。		

電気機械器具製造業 (経営者)	・国内や海外の景気動向を見ても良くなる要素が見当たらない。特に中国との取引に関する冷え込みは厳しい。来年、中国の展示会に出品する予定だが、今後の動向によっては中止せざるを得ない。
電気機械器具製造業 (経営者)	・選挙を控えて、ここへきて当分景気が良くなる要素がない。
その他製造業 [靴] (経営者)	・このところの動きからは、大きく変化することはない、この状況で安定してきているようである。ただ、最近の傾向としては、メイドインジャパンという言葉を得意先でどんどん使ってきている。中国産などのなかにおいて、国産というのが再度認められてきているような気がする。
建設業 (経理担当)	・消費税増税の話題が多く出てくるようになってきたため、建築を計画している客が早めの発注へと動き出すことを期待している。しかし、景気が良くなっていないため、ここで新たに計画をしてくれる客は望めない。
輸送業 (経営者)	・当業界では、いくら気をもんでも得意先の取引によって影響が出てくる。荷主からは、いろいろ慰められながら一生懸命仕事しているが、荷主も大変受注が少なく困っている。
輸送業 (経営者)	・相当の金融緩和と経済対策がはっきりと打ち出せないまま推移している関係もあるためか、一気に景気が良くなるという期待感は少し薄れている。
金融業 (統括)	・今後の見通しがまだまだはっきりしていないため、当面は変化がない。
金融業 (従業員)	・全体としては持ち直しつつあるが、力強さを欠いている。設備投資の低迷にも歯止めがかかっている。建設業、不動産業が回復しつつあるが、小売業の業況は依然として厳しい。
不動産業 (経営者)	・年末から動きが始まらないとどうしようもない。上昇を祈るのみである。
広告代理店 (経営者)	・変動要因が見当たらないため、現在の延長である。
広告代理店 (従業員)	・受注予想などから、増減はない。
社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
経営コンサルタント	・良くなる材料がない。
税理士	・良くなる材料が見当たらない。消費税増税は確実にとなったが景気が良くなる材料とはならない。
経営コンサルタント	・今月で締め切られる多くの企業の24年度上半期の業績は、回復、好調は少ないのではないかと思う。この先も、不透明感が強く、経営環境の変化を読み取れない歯がゆさがある。復興需要で潤っている一部業界は別にして、多くの中小企業は悲観的な見方をして、控えめな下期計画を策定している。
その他サービス業 [映像制作] (経営者)	・年末に向かうものの、特に新規の予定がなく、相変わらず厳しい状況が続く。
その他サービス業 [情報サービス] (従業員)	・インターネット対応のマンションにグレードアップするための営業において、他社との競合がさらに激しくなっている。
やや悪くなる	
繊維工業 (従業員)	・開催される予定だった上海の展示会が中止となった。尖閣諸島問題にからみ、中国における消費者の日本製品に対する購買意欲が削がれ、国内消費にも影響が出ることを懸念している。
出版・印刷・同関連産業 (経営者)	・周囲の景気状況は特に大きく変化してはいないが、今後どのような景気変動があるのか予測できない。むしろ予断を許さない状況である。
プラスチック製品製造業 (経営者)	・長期化する円高に加え、尖閣問題に端を発した中国との関係に不安を感じる。しかし、中国進出した顧客が国内回帰に向かえば、一時的にでも受注増加の期待感がある。
一般機械器具製造業 (経営者)	・中国向けの輸出に急ブレーキがかかり、注文が減っている。他の物にも影響が出てくるのではないかと心配している。今年前半に円高のため、アメリカに大きいロットのものが持って行かれた。中国と問題が起きているようなので、これからまた中国の物がさらに減るのではないかと、心配している。
精密機械器具製造業 (経営者)	・隣国との関係悪化、世界的市場の停滞感のためである。
建設業 (経営者)	・厳しい価格競争になっている。材料も値上がり傾向にあり、先行きが見えない。
建設業 (営業担当)	・反日暴動で中国に進出している取引先メーカーが、中国での営業を見合わせている。その影響で日本における設備投資も見合わせており、見込みを立てている案件についても、いつ発注されるかが分からない状態である。
輸送業 (経営者)	・4月から下がってきた軽油価格が8月より再び上がり始めている。今後も値上がりの心配が強く、経費の負担増が懸念される。



	輸送業（総務担当）	・今後も出荷量が確定していない。また、増産により出荷が増えても、東北方面から首都圏に来る車両が少なく、自社の車両で片道運送のため採算がとれない。燃料価格が8月下旬より値上がりして、高値の状態が続いている。
	通信業（広報担当）	・外需が弱く、その影響でこの傾向はしばらく続く。
	金融業（渉外・預金担当）	・中国等の問題による影響を懸念しており、実際に減産も発表されている事から、景気は悪化するとの声が多い。
	金融業（支店長）	・為替、株式のマーケットも極めて狭い範囲で動いている。今のように停滞している状況下こそ政治に期待したいが、現在の政局では当面回復は望めない。
	金融業（役員）	・報道されている外交問題の影響で、輸出関連企業は売上が落ちることを心配して積極的な行動をとらない。消費税増税をにらんで、長期の不動産開発プロジェクトは敬遠される傾向にある。
	金融業（支店長）	・取引先の客の見通しを聞くと、まだまだ売上に対する見込みがないということ、相変わらず運転資金等のストックが少なくなっているということで、やや売上が悪くなっているようである。また、消費税増税や電気料金が値上げで、売上がないなか経費が増すことを考えると、やや悪くなる。
	広告代理店（従業員）	・取引先の車販売会社で、エコカー補助金が終わってしまい、売上の落ち込みがありそうである。
	広告代理店（営業担当）	・中国、韓国の情勢が悪いためである。
	税理士	・北米の景気は良くないが、中国を始め新興国に対する輸出等が良いため、そのバランスでやってきたが、尖閣諸島の問題で不買運動などが生じており、中国に対する売上減が大きな要素である。また内的要因として、政治が迷走しており、政権がしっかりしないところに景気問題も随分あるため、そこがどんな展開をしていくかにもかかっている。
	経営コンサルタント	・政局の混乱、尖閣諸島などの国際関係の問題など不安要因が大きい。
	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・この秋に客先の廃業、事業縮小が続いている。今後も同様な動きが予想され、厳しい状態が続く。
	悪くなる	
	金属製品製造業（経営者）	・客先の計画がはっきりしないと見通しが立たない。また、産官学関係の研究開発の仕事が一部出ているが、量が少ないため仕事が少し手薄になる。
	金属製品製造業（経営者）	・中国との領土問題による日本製品への影響、円高など、製造業にとって良いと思えることがない。
	建設業（経営者）	・相変わらずの投げ売りで東日本大震災の復興による職人不足であるため、関東周辺では業界的に市場が不安定な状態になっている感がある。
	建設業（経営者）	・景気対策が実行されていないため、経済の空洞化が進む。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円高の長期化と欧州の信用不安のため、悪くなる。
雇用関連	良くなる	—
(南関東)	やや良くなる	
	求人情報誌製作会社（編集者）	・ここ数年、新卒の採用数を手控えてきた企業が、年齢構成のいびつさを解消しようとする動きが見え、前年より採用数は増加すると思う。広報費は増えそうである。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・徐々に求人数が増えてきているようである。
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・参加企業はそれほど多くないが、合同企業説明会の開催通知が県内及び東京、また地方から、多く届くようになっている。
変わらない		
	人材派遣会社（社員）	・製造業の中小企業のトップと話をしたが、中国生産を本格的に他へ移そうと考えている人が何人もいた。非常に不安を持っているようで、他の東南アジアの国々に動かしたいという所が多い。また、家電の不況によって注文が大分減っているという所が多く、冬に向かって幾らか良くなると話していたが、あまり望みがないような所が多い。
	人材派遣会社（営業担当）	・雇用形態において終身雇用制が復活するか、給与水準が上がらないと景気回復は難しい。
	職業安定所（所長）	・雇用関係の指標は明らかに改善の方向に進んでおり、有効求人倍率も上昇カーブを描いている。また、飲食店などからの求人も増加している。しかし、国際的な情勢からは、景気が良くなるとは考えにくい。
	職業安定所（職員）	・前年は東日本大震災の影響で離職者も多く、求職者も当然増えていたが、現在は、前年に比べるとやはり減少している。求人も確かに増えているが、円高や中国の問題、また新しい会社の新規進出等は少しも見られないため、変わらない。もしかしたら今後2、3か月の影響を考えると、今よりやや低下している可能性もある。

	職業安定所（職員）	・中小零細の事業所は、経済動向を様子見しながら採用に慎重な事業所も多い。
	職業安定所（職員）	・採用者数の動きに変化が見られない。
	職業安定所（職員）	・求人増加割合が減少している。その中でも、やはり建設関係、介護や医療関係の求人は増えているが、製造業が伸びてこない。
	民間職業紹介機関（経営者）	・中国の尖閣諸島領有権主張デモの影響で、現地日系企業の生産がストップしたり、日本製品の不買運動などで、日本企業の生産活動の先行きが見えない。また、中国に進出する企業もこの先の展開を見直すが、今の為替では工場が日本に戻って来るとは考えにくく、雇用の先行きは不透明である。
	民間職業紹介機関（職員）	・求人数、採用数において、大きな変化が見られない。
	学校〔専修学校〕（就職担当）	・新規採用計画、追加募集など、当初の予定より採用状況を変化させている企業はさほど多くはなく、獲得求人数に関しては前年並みの予想である。
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・10月の労働者派遣法の改正施行に伴い、派遣できる労働者が減少し、クライアントからの依頼に対応しきれない可能性がある。
	人材派遣会社（社員）	・中国経済の影響を懸念している。現地法人の休業が長引けば、国内への影響も出始める。得意先からも不安視する声が多い。
	人材派遣会社（支店長）	・労働者派遣法が改正されることで使い勝手が悪くなり、企業の派遣離れが更に進む。
	人材派遣会社（営業担当）	・基本的に変わりはないと思うが、労働者派遣法の改正が施行されることにより、工場や作業系がしばらく低迷する。
	人材派遣会社（営業担当）	・企業の業務量減少に伴い、期間満了による終了が増えている。そのため派遣後任案件が減少しており、全体の派遣利用人数は減少傾向にある。
	人材派遣会社（支店長）	・10月の労働者派遣法の改正に伴い、企業側からみると派遣や直接雇用のパート、アルバイトの利用が抑制されるようである。また、円高や政治の不安定は十分に景気を抑制している。
	求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数は低調のままで横ばい状態だが、募集業種がこの春先に比べると減少しているようだ。資格が必要な業種の募集は堅調だが、営業やサービスなど、求職者のたれもが就業できる職種の件数が少なくなっている。
	求人情報誌製作会社（広報担当）	・アメリカ、中国の景気の減速、悪化の影響を受ける企業が多い。アメリカの干ばつの影響等で、日本でも食費等の値上がり等があり、景気悪化が進む感じがする。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末にかけては減少の一途をたどるのが例年であるため、10月にどれだけ多くの注文をもらえるかである。また、年末にかけて期間限定や正社員の募集を少ないながらもどれだけ取れるかということに掛かっているが、やはりどうしても今と比べると相当減少する。
		職業安定所（職員）
	民間職業紹介機関（職員）	・求人市場は、景気動向指数、鉱工業生産指数との連動性もあり、そちらを見ている限りにおいては、下降トレンドにあり、このままの状況が続いていくかは微妙な状況になってきている。
悪くなる	—	—